

# オリーブの会通信

مجموعة الزيتون

2021年7月10日第8号 (通巻14号)

オリーブの会

大阪府豊能郡能勢町平通101-453

tel/fax:072-737-9454

mail: olivenokai\_zeytun@yahoo.co.jp

facebook;oribunokai



## エルサレムの剣作戦とカイロ会議の中止

ベイトでの占領軍に対する抵抗闘争

エルサレムの剣作戦で、イスラエルとの無条件の停戦に導き、その後、停戦を仲介したエジプトの仲介で、カイロでの民族対話が開催されことになっていた。しかし突然、対話の条件が整わないとエジプトが中止を宣言した。民族対話のメインは、これまでと同じようにハマスとファタハであった。

### エルサレムの剣作戦の勝利とイスラエルとの停戦

エルサレムの剣作戦は、シェイク・ジャラでのパレスチナ人の追い出しと、入植者の占拠をめぐっての闘争、また、過激入植者によるエルサレム旧市街でのアラブ人、イスラム教に対する挑発行動が行われたのに対し、パレスチナ人がそれに対峙したものだ。それは、アルアクサ・モスクでの占領軍との対峙まで発展した。さらに、西岸のパレスチナ人だけではなく、イスラエル占領当局が48年領内のパレスチナ人のアルアクサ・モスクでの礼拝を阻止する動きに出たため、パレスチナ人たちは妨害を乗り越えて結集していた。このエルサレム・アルアクサの闘いは、歴史的パレスチナ全土に拡大した。

この闘いに連動して、ガザのパレスチナの抵抗諸派は、ロケット攻撃を開始、ロケットはテルアビブまで初めて届き、大量のロケットが発射されることで、イスラエルの人々に恐怖を与え、イスラエルは、こうした状況に対して、レッドラインを超えたとして、ガザへの激しい報復を行った。パレスチナ人には、これは、大きな励まし力になり、歴史的なパレスチナ全土での闘いとなり、シオニストに恐怖を与え、また、無条件の停戦を受け入れさせることになった。

パレスチナ全土で、闘いの勝利を祝った。これは、これまでのガザへの攻撃に対する態度ではなく、パレスチナ全体がエルサレムの剣作戦に共感を示し、パレスチナ力の拡大を感じるようになった。

### ガザのハマス、抵抗勢力へのパレスチナ全体の支持が強まる。

エルサレムの剣作戦への共感、ガザのハマスや抵抗諸勢力への支持を強め、逆に、この抵抗闘争で、アッバース大統領の自治政府がなんの役割を果たさなかった。

## オリーブの会通信 第8号(通巻14号)

アッパースが行ったことは、エルサレムでの選挙をイスラエルが許可しないことを口実にして、延期したことだけであった。

自治政府が、オスロ合意に従い、イスラエルとの治安共同など行っている限り、パレスチナの人々にとっては、イスラエルの手先でしかなく、自治政府の政策をパレスチナの人々は支持しない。

しかも、米国、イスラエルはハマスをイスラム原理主義のテロ組織として、自治政府を支援してきた。しかし、これも前回の選挙でも勝利したのは、ハマスであり、それをクーデターで覆したのがファタハであり、現自治政府である。それは、米国、イスラエルによって支持され、パレスチナの分裂状態が作り出されてきた。当然、自治政府がオスロ合意を明確に破棄しない限り、民族的な統一を作りことはできないし、今回のイスラエルへの抵抗闘争は、さらにそれを明確にした。

### エジプト仲介によるハマスとファタハの和解のための会議は、中止された。

イスラエルとハマスなどの抵抗勢力との停戦を仲介したエジプトが、停戦後に、ハマスとファタハの和解の会議をカイロで行うことを提案した。ハマスなどガザの諸派は、カイロに行ったが、エジプトが、条件が整わないと突然の中止を行った。

背景は明確に説明されていないが、ファタハの都合であり、その後ろの米国、イスラエルがあるのではないかとと思われる。

6月21日に開催されたファタハの革命評議会で、アッパース大統領が、あらためて、民族統一の重要性を訴えたが、どこまで本気かはわからない。停戦以降も、西岸各地で、パレスチナの民衆の占領軍、入植者の闘いが継

続し、ガザで行われていた「ナイト・コンヒュージョン」という戦術をとって闘っている。こうした状況で、民族的に統一した闘いに言及しなければならなくなっているためかと思われる。

### イスラエルは自治政府を支持し、ガザへの援助なども自治政府を通しておこなうことで、選挙の延期なども。

米国、イスラエルは、ガザの復興援助なども、自治政府を通して行うとしており、あくまで、ハマスに対しては、援助しない立場とっている。また、コロナワクチンも、自治政府を支援するために、年末に自治政府に来るワクチンと交換に、イスラエルがワクチンを早く渡すなどの政策をとっている。

また、ガザへは封鎖を強め、ガザの復興に必要な資材の搬入を阻止し、また、ガザの農産物が西岸へ輸送できないようにしている。これで、新政府の国防相であるガンツが、ガザで捕虜となっているイスラエル兵の引き渡しを要求するなどを行っている。

イスラエルでは12年間政権にあったネタニヤフが退陣し、極右のベネット首相の新政府となった。しかし、中道、左翼、アラブ系まで含んだ連立政権であっても、これまでのイスラエルの政策が変わるわけではない。新政権になって、ガザへの空爆を繰り返しているのを見ればそのことは明らかだろう。

自治政府が、オスロ合意を明確に破棄しない限り、民族統一は困難であること明確である。第一次インティファダの時のように、若者たちが乗り越えていく可能性は高い。



『ベイトでのナイト・コンヒュージョンの闘い』



ガザでの火炎風船の発射の準備



イスラエルの新政権について

イスラエルでは、組閣できないことで、4回の総選挙を繰り返してきた。ついに紆余曲折をへて、極右からアラブ政党まで含む、連立政権が成立し、12年続いたネタニヤフ政権に終止符を打った。しかし、新連立政権は、通常は成立しえないような、反ネタニヤフだけの連立政権である。そのため、パレスチナ問題が出てくれば、立場の違いは明確になるし、すでに、連立に入った統一リストのマンスール・アッバースは、二級市民にふさわしい扱いになっている。

**反ネタニヤフだけの連立政権—極右から左翼、アラブ政党まで。**

一瞥して、わかるように、極右、右翼、中道、左翼まで含まれ、閣僚に入れてもらえていないがアラブ系の統

一リストも連立に入っている。統一リストからは一人が拒否している。なので、61議席になる予定が、60議席で連立政府が成立した。この政権で共通しているのは、反ネタニヤフという一点であった。政策的共通点はない。統一リストのマンスールが連立に入った理由。前回の選挙では、共同リストに入っていたが、今回の選挙では、分裂して統一リストを作った。もともとネタニヤフとの連立を意図して、分裂。反ネタニヤフ連合で連立に入ることに、リストのメンバーの一人が、拒否した。占領軍の弾圧にさらされているネゲブの人々に自分たちの立場を説明できないとして、批判した。統一リストはもともとアラブ系を中心とする共同リストに入っており、前回の選挙では、16議席を獲得していた。しかし、4回目の総選挙を前に、マンスール・アッバースの統一リストは、共同リストから分裂して、4回目の総選挙に臨んだ。この分裂は、ネタニヤフのリクードの働きかけがあったと

**第36代イスラエル内閣**

役職	氏名	政党	性別	
1 首相兼入植地相	ナフタリ・ベネット	ヤミナ	男性	極右
2 副首相 (2年後に首相の予定) 兼外務相	ヤイル・ラビッド	イエシュ・アティド	男性	中道
3 副首相兼法務相	ギドン・サール	ニューホープ	男性	中道右派
4 副首相兼国防相	ベニー・ガンツ	青と白	男性	中道
5 財務相	アビグドール・リーベルマン	イスラエル・ベイテイヌ	男性	極右
6 財務省付大臣	ハマド・アマール	イスラエル・ベイテイヌ	男性	極右
7 エネルギー相	カリン・エルハラ	イエシュ・アティド	女性	中道
8 建設・住宅相兼内閣・国会調整相兼エルサレム問題・遺産相	ゼエフ・エルキン	ニューホープ	男性	中道右派
9 保健相	ニツァン・ホロビッツ	メレツ	男性	左派) 社会民主主義
10 教育相	イファット・シャシャ・ビトン	ニューホープ	女性	中道右派
11 農業・地方開発相兼地方・ネゲブ・ガリラヤ開発相	オデッド・フォア	イスラエル・ベイテイヌ	男性	極右
12 経済産業相	オルナ・バルビバイ	イエシュ・アティド	女性	中道
13 科学技術相	オリット・ファルカシュ・ハコーエン	青と白	女性	中道
14 諜報相	エラザール・スターン	イエシュ・アティド	男性	中道
15 厚生労働相	メイヤー・コーエン	イエシュ・アティド	男性	中道
16 移民統合相	ベニナ・タマヌ	青と白	女性	中道
17 内務相	アイエレット・シャクド	ヤミナ	女性	極右
18 運輸相	メラブ・ミカエリ	労働党	女性	左派
19 観光相	ヨエル・ラズボゾフ	イエシュ・アティド	男性	中道
20 ディアスポラ問題相	ナフマン・シャイ	無所属 (前国会議員)	男性	
21 通信相	ヨアズ・ヘンデル	ニューホープ	男性	中道右派
22 文化・スポーツ相	ヒリー・トロップパー	青と白	男性	中道
23 公共治安相	オメル・パー・レフ	労働党	男性	左派
24 環境保護相	タマール・ザンドバーグ	メレツ	女性	左派
25 社会平等相	メイラブ・コーエン	イエシュ・アティド	女性	中道
26 宗教問題相	マタン・カハナ	ヤミナ	男性	極右
27 地域協力相	イサウィ・フレジ	メレツ	男性	左派

(出所) クネセトウェブサイトを基にジェトロ作成 表

いわれていた。

選挙後は、ネタニヤフのリクードは、第一党であったが、過半数に届かなかった。また、連立工作もうまくいかず、そのため、反ネタニヤフかどうかを明確にしていなかったベネットの少数政党の「ヤミナ」(右翼の意)とマンスールの統一リストへの工作が行われていた。この二つの政党がどちらへ着くかで、連立の行く先を決めることになった。

ネタニヤフは、前回の連立の時と同じように、ベネットに首相職の輪番を持ち出した。しかし、前回の連立でも、青と白の党のガンツに首相輪番制を持ち出して、連立が作られたが、ネタニヤフは、首相の座を譲らなかった。ガンツの党は、反ネタニヤフとなった。こうした状況を知っているベネットは、最初に自分を首相にするように言ったのではないかと思われる。ネタニヤフがそれを拒否し、決裂となった。

反ネタニヤフ派も、ヤミナなどの協力がなければ組閣することができず、ベネットは、ラピッドと首相輪番制で、最初の2年間をベネットが首相とすることで合意した。マンスール・アッパースも連立に合意。極右、中道、左翼、アラブ政党を含む前代未聞の連立政府が形成された。61議席を形成したが、統一リストから一人が抜けたため、60議席となった。59議席のリクードの連立よりも、僅差で多数になり、新政府をつくることになった。

イスラエル建国後、長く政権を担っていた労働党は、少数政党になり、もう一つの社会民主主義のメレツと合わせても少数派でしかない。連立の中でも影響力を持つわけではなく、極右の政党と中道右派がその中心であり、基本的には、ネタニヤフ政権とも変わりがない。右派間の主導権の争いでしかなく、パレスチナに対する政策は変わりがない。連立に加わっているマンスール・アッパースもアラブ系イスラエル人の改善の要求であり、パレスチナ問題を掲げているわけではない。

同じアラブ系でも共同リストは、ベネットが首相になる限り連立には入らないとして連立政権には加わらなかった。当然である。アラブ人を何人も殺したことを自慢する人物と連立を組むわけにはいかないと連立を拒否した。

アラブ議員は二級市民として、制限されている。連立に入ったとしても、一級市民にはなることができず、民主国家イスラエルという宣伝に使われる。イスラエル議会のクネセットでも、アラブ議員の追放を何度も持ち出されている。連立を組んだマンスール・アッパースも、閣僚を出すことができず、内務委員会の委員長となったが、公安関係の重要な委員が参加しない、形だけのものと

なっている。

2009年1月、中央選挙委員会は、2月の総選挙でアラブ政党からの立候補を禁止すると発表した。アラブ人が個人としてその他の党派から立候補することは差し支えないとしている。人種差別と反発が起きている。最高裁によって、中央選挙委員会の決定は却下されたが、ガザ侵攻(2009年)で、アラブ人との緊張が高まっていることが背景にあるという。

このことに限らず、クネセット内でのアラブ人議員やアラブ系政党の存在は常々イスラエル国内で議論の対象となっている。左派リベラル勢力(大手紙「ハアレツ」など)はイスラエルの民主主義を維持するために必要だとの立場をとる一方、リクードやその他右派政党、極右の入植者勢力などは「ユダヤ人国家」の純潔を穢すものとして、アラブ人議員追放、アラブ系政党禁止を主張することが多い。

また、過去に過激な極右政党(カハ)がクネセットに進出したことがあるが、勢力を拡大させる前に中央選管とイスラエル最高裁が手を打ってこの党の議席を没収し、クネセットから追放したことがある。

イスラエルのイエディオト・アハロノト紙のニュースによると、イスラエル議会でツイッピー・リヴニ氏率いるシオニスト陣営のアラブ系議員ズヘイル・ベフリユル氏が、同法が承認されるような議会に続けることに耐えかねると述べ、辞任を表明したと発表した。

イスラエル議会は「差別主義的」と述べたベフリユル氏は、「ユダヤ国民国家法は、アラブ人を公的に、憲法のもとに疎外するものだ」と注意を促し、9月の議会の新たな立法年の開始とともに辞任し、その決定を覆すことはないと強調した。

イスラエル議会で僅差の票数で承認されたユダヤ国民国家法は、二つの国民形態を視野に入れている。それによれば、800万人以上の人口を抱えるイスラエルの20パーセント以上を占めるアラブ人は二級国民の地位に陥ってしまうと伝えられている。

同法により、アラビア語は公用語から外され、イスラエルの唯一の公用語はヘブライ語となった。

同法の最も多くの反発を買っている条項の中で「イスラエルで自分の運命を決定付ける権利はユダヤ人のみにある。イスラエルは世界の全ユダヤ人の歴史的な祖国であり、世界の全ユダヤ人はイスラエルに帰還する権利を有している。ユダヤ人の宗教祭日は公式な祝日とされ、イスラエルの首都はクドウス(エルサレム)である。」という条項が目されている。

同法内で「イスラエルは世界の全ユダヤ人の歴史的な

祖国である」と述べられ、この土地におけるパレスチナ人の歴史的な存在や権利は無視されている。

右翼シオニストによって捨てられているがイスラエルが民主国家であるという宣伝の一つになっているだけであり、アラブ系の市民が、占領地同様の抑圧化に置かれている事実を覆い隠すものでしかない。

左翼シオニストのイスラエルの左翼は影響力を失っている。労働党もわずかな議席しか持たず、影響力をもたない。パレスチナ問題の2国解決方式を推進してきた労働党は、その影響力を完全に失っている。主導権は右翼

政党にあり、パレスチナの併合を推進してきたこれまでのネタニヤフ政権と変わることはない。

米国のバイデン政権は、新イスラエル政府の構成を見て、当面は、パレスチナ問題をイスラエル政府に持ち込まないとしている。持ち込めば、この連立が壊れてしまうことが明確であり、ネタニヤフの復権につながってしまう。

二国解決方式に行く余地はなく、右翼シオニストの西岸の併合と主権をもたないパレスチナ自治政府によるパレスチナ支配を認めることにとどめられる。



エルサレムは等式を課す

2021年5月11日に投稿 | 11:02 (PFLPのホームページより)

ラセム・オベイダト

人民蜂起は、占領者との恐怖のバランスを作り出したガザだけでなく、イスラエルと入植者たちのアラブ人を排除、都市からのイスラムのアイデンティティ、その人口統計学のおよび地理的事実を覆し、その全体的な風景をアラブ-イスラム教徒-キリスト教のシーンからシオニスト-タルムード的ユダヤ人のシーンに変更する企て、... 激化を求めるシーン、占領の試みと入植者からの犯罪に対して、エルサレムでもラマダンの祝福された月の初めから続いている。占領者はアラブ地区の中心部に入植し、... すなわち、広範な住民の追放、強制移住、戦略的な地区の民族浄化、とりわけ、いわゆる聖なる盆地(シェイク・ジャラ、シルワン、アルトゥール、旧市街)でのエルサレムでの大量の家屋解体となった。そして占領者のこの傲慢な行動と、この都市での正真正銘のパレスチナ・アラブの存在の追放と排除に基づく彼の戦略に照らして、それは街のアイデンティティとその主権

をめぐる対立の戦争で膨張され蓄積された鬱積を「起爆」させることが必要だった。エルサレムの街で実質的な人民蜂起が爆発し、その効果はエルサレムに限定されませんでした。それを超えて、歴史的なパレスチナの全地域、アラブとイスラムの世界、そして地域と国際的な空間に広がった。

私たちはエルサレムをテーブルから取り除くプロジェクトと計画を発見しました。それは、シオニスト・トラUMPが率いる元過激派の右翼アメリカ政権のチームによって説かれた。それは、エルサレム人の意志、彼らの不屈、占領者が、ユダヤ化と解体に賭けた48年のパレスチナのルーツにいる私たちの民衆との直接の結束とによって、潰れるだろう。..... はい、エルサレムは、平衡抑止等式を課し、そして、エルサレムについて美辞麗句をはいてきた政権、諸国を暴露し、これらの政権はエルサレムとその神聖さに対する陰謀のパートナーであることを暴露した。同様に、エルサレムは、エルサレムを彼らの大義を彼らの利益と狭い議題の奉仕に投資し、彼らの飾り物にしたパレスチナの指導者を暴露しました... エルサレムは、それを打倒する道程で暴露している。占領者がイスラエルの社会と経済に、溶解して統

合することに賭け、数億のシェケルを「順番に」、「精錬」、「征服」、「彼らの意識を狂わせよう」とした、エルサレムの若者とオスロ後の世代は、彼らがエルサレムの贈り物を導いた者たちであることを発見した。それは、ナクバ、オスロ後の世代であり、そしてヘブライ大学をはじめとする占領の教育機関のパレスチナ内部とエルサレムからの私たちの学生も同様である。彼らは、私たちがパレスチナ人であり、私たちのナショナリズムがアラブ人であるパレスチナ・アラブ人であると言いました。

エルサレムは27年間で自治政府が惨めに失敗したことを示しました。そしてそれは無駄な交渉マラソンが行われ無効なものであった。曰く「エルサレムはレッドラインです」「エルサレムは永遠のパレスチナ国家の首都です」という声明など。

継続する民衆の贈り物ともにエルサレム人は、その性質がローカルにもかかわらず、イベントまたは、その贈り物が起こった原因を終わらせる雷管に結びついている。しかし、行動の過程の文脈での蓄積と動員は、より多くの達成物と勝利を積み重ねていた。そして、ギフトの三角形をバブ・アル・アムド(ダマスカス門)とシェイク・ジャラとアル・アクサ祝福されたラマダン月の初めからの質的で継続的な民衆の贈り物の正方形にしました。その発展と全面的な民衆蜂起への内部の障害に強い圧力をかける包括的な人民蜂起への転換への道を開きます。それは、地元のスローガンではなく政治的なスローガンを掲げる、全面的な民衆蜂起への転換。最大の内部の障害は、オスロのコースから離れられず、治安義務から自らを解き放つことができず、また、アメリカ湾岸アラブ首長国軸のマントの下から、より広いアラブ・イスラム空間に向けて決定を下すことを拒否している惨めな自治政府である。

エルサレムは占領者との抑止力のバランスの等式を課しました。その最前線には、警察、軍隊、入植者を含む占領者との広範囲にわたる直接的な大衆の衝突があり、恐怖の状態を壊します。道路を封鎖することによって道路の端を切り取り、近隣を包囲することによって占拠された近隣との通信をつくりだし、占領者に新しい方程式を課します。占領者が、アブゴーシュのアラブの村の入り口に乗客を落として、アルアクサモスクのレイラトアルカドルを記念して、パレスチナの内部から来るバスの道路を封鎖しようとしたとき、エルサレムの若者が救助に来て、彼らをエルサレムとアルアクサに連れて行き、エルサレム、テルアビブ、パレスチナ沿岸を結ぶ高速道路を切断し、占領者にバスがエルサレムとアルに向かっ

て運転し続けることを強制しました。

2番目の等式に関しては、それは法的に卓越したものであり、ここで意味するのは、占領の司法とその3度(和解、中央集権化、最高)の法廷への信頼ではなく、むしろ大衆の圧力の下で、占領者に退きの危機に瀕している4家族の事件の今日の朝に予定されている決定を後日に延期を強制した。それは、民衆蜂起の炎を増大させることをさけるために、一か月以内に決めるとした。

3番目の等式は政治的卓越性でした。抗議者たちは、トランプの取引でも、崩壊したアラブの公式政権の多くの国々が占領者とエルサレム問題を取り除くことができる安全保障と軍事戦略的同盟を結んでいるため、正規化ラッシュもないと述べました。贈り物の効果と、シェイク・ジャラの家族の追放と強制移動の問題があったテールブルは、アメリカの意思決定者だけでなく、国際カルテット、ロシア、中国、欧州連合にも影響を与え、デモは多くのアラブ、イスラム、地域および国際的な首都と都市は、占領者の残忍さを非難し、シェイクジャラとエルサレムの他の地域での民族浄化活動の終了を要求しました。

第4の等式については、運命の一致と一方でエルサレムとガザの間、他方でエルサレムとパレスチナの中軸の間の道を強調することでした。私たちが国際エルサレムデーで見たのは、1979年7月8日、ホメイニーは、毎月最終金曜日のラマダンをエルサレムの日にするという響き渡る叫びでした。エルサレムでは、アラブとイスラムの大衆が、行進、デモンストレーション、座り込みで、都市や首都のすべての街路に出かけます。エルサレムを支援するための会議やセミナーを開催した。それがすべてのアラブ人とイスラム教徒にとって、彼らの違いや闘争、そして統一された説教帽のキム・アル・マヤディンの衛星テレビ画面上の人々からキスとそれから離れることであることを強調しました。統一されたプラットフォームで、私たちはこの軸のすべての指導者を見て、イスラム教徒とキリスト教の聖職者がエルサレムの戦いの普遍性を確認し、前景がアルアクサモスクであるエルサレムとその神聖さがレッドラインであることを確認しました。例ですが、Abdul Malik Al-Houthiに限定されません。彼は「イエメンの人々はエルサレムの戦いに参加している」と述べ、アル・スマイダイは「イラク彼はパレスチナの名前を聞いて立ち上がる。1967年6月の戦争でのイラク軍の英雄を思い起こさせる。」シェイク・イツ

サ・カセムは、「今日のエルサレムは、それを取り巻く闘争の過去すべてに近づいています」と述べました。そして、アルバクリ少将は、「最古の占領者の下から敷物を引っ張る準備ができています」と述べました。彼の著名人は、「この占領には未来はなく、それは終焉です。」

エルサレムは民衆の贈り物で新しい等式を課し、民族プログラムを再考する統一されたパレスチナのビジョンと戦略を描くことによって、各コミュニティの特異性を考慮して、エルサレム、ヨルダン川西岸、ガザ地区、パレスチナ難民とディアスポラのすべてのパレスチナコミュニティを含む民族プロジェクトを新たに再構築することを再提案します。



私たちパレスチナ人は、私たちの大義を自由のための闘争ではなく、行政上の問題として扱う非民主的な指導者にうんざりしてきました。

ジョージ・ザイダンとミラン・クワイス著  
2021年6月22日



2019年4月13日、ヨルダン川西岸の町ラマラにあるPAの本部で、新しいパレスチナ政府の宣誓式でパレスチナ自治政府のマフムード・アッバース大統領。(Nasser Ishtayeh / Flash90)

過去2か月は、パレスチナ人にとって圧倒的で変革の時期でした。イスラエルの暴力に直面した悲しみと恐れに満ちた時期でしたが、イスラエルによるパレスチナ人の抑圧に変化と終止符を打つためのインスピレーションにも満ちていました。この歴史的な瞬間の中で、1つの重要な要因はほとんど変わっていません。それは、パレ

スチナ自治政府 (PA) の役割の低下と、それに伴うオスロ合意プロセスの完全な停止です。

先週、PAは、自身の衰退を強調するかのよう、ラマラーに本拠を置く政府がCOVIDと戦うためにイスラエルから100万回の余剰ワクチンを出荷することに同意したことをメディアの報道が発見したとき、大きなスキャンダルに巻き込まれました。

しかし、投与量は数週間以内に期限切れになるように設定されており、代わりにイスラエルに与えられる新しいワクチンの出荷と交換される予定でした。屈辱的な取引に対する国民の怒りに続いて、PAは合意をキャンセルした。(これは、遅れた不十分な取引におけるイスラエルの役割を免除するものではありません。イスラエル人権医師のガダ・マジヤドルが説明したように、「責任を受け入れ、全人口に遅滞なくワクチンを供給する代わりに、イスラエルは馬の取引を行っています。」)

この失態は、PAのひどい無能さだけでなく、パレスチナの人々の生活と願望からの完全な分離の最新の証拠です。先月、エルサレム地区シェイク・ジャラの家族の民族浄化に関するイスラエル最高裁判所の予想される決定に至るまでの数日間、パレスチナ人はイスラエル内の占領地とアラブの町全体で大規模なデモを組織しました。これらの抗議行動は主に若いパレスチナ人によって主導され、その多くは、PAを統治する与党ファタハ党やパレスチナ解放機構を含むいかなる政党とも提携していませんでした。



2021年5月18日、ラマラの入り口にあるベイトエル検問所近くでのデモ中にイスラエル治安部隊と対峙したパレスチナの抗議者たち。(Flash90)

多くの点で、この種の草の根の蜂起はほとんど避けられませんでした。何年もの間、パレスチナ人の国家的指導者であると主張するPAは、国民の利益を代表するというその役割を果たしていませんでした。ラマッラーの指導者たちが彼らを助けることは何もないことを知っていたパレスチナ人は、彼らの怒りを表現するために第一次インティファダを彷彿とさせる戦術を使って、団結して通りに行くしかありませんでした。彼らは彼らの要求を明確にしました：彼らは、私たちパレスチナの人々の抑圧に終止符を打ち、私たちの自由に向かって一緒に行進することを望んでいます。

悲しいことに、PAは私たちと一緒に進歩することに興味がないようです。一連の抗議の週間、PAはほとんど完全に沈黙していました：1948年または1967年に占領されたかどうかにかかわらず、すべてのパレスチナの都市が高揚している間、PAの指導者は彼らが観察体であるかのように遠くから見てるように見えました。その間、その治安部隊は、その権威を主張するために、必死の試みで、多数の活動家の逮捕を実行したり、抗議者に嫌がらせや脅迫を行ったりすることに忙しかった。最近のワクチンキャンダルとそれに対する国民の反発は、PAが今日行使している力と尊敬がいかに少ないかをさらに示しています。

### パッシブアプローチ

1990年代以降、PAを占領下請け業者として設立したオスロ合意は、パレスチナの大義を自由のための闘争ではなく行政問題に変えようと試みてきました。PAは、

私たちが私たちの生活の中で達成する目指すべき最大が、イスラエルが発行した許可証、またはイスラエルの病院での医療の調整の成功であることと、私たちに信じさせました。これは、私たちの問題が単に日常のロジスティックスの問題にあり、これらの問題を解決するだけで、パレスチナ人が満足するというふりをする受動的なアプローチです。

- 国家解決を実現できる、またはオスロ合意があらゆる種類の解放への道を提供できるということ。  
しかし、パレスチナ人にとって、その船はずっと前に出航しました。オスロの署名以来、イスラエルは何千もの違法な入植地を建設し、何万人ものイスラエル人入植者を占領地に移しました。これは国際法に露骨に違反する戦争犯罪です。COVID-19 ワクチンなどの医薬品を含む基本的な商品やサービスの移動は、依然としてイスラエルの国境当局の管理と課税の対象となっています。地上のこれらの事実は、私たちパレスチナ人が与えられている道を決定する唯一のものです：ヨルダン川から地中海へのアパルトヘイト体制。



パレスチナの医療従事者は、2021年3月4日、ヨルダン川西岸のヘブロン市にあるパレスチナ赤新月社病院でCovid-19に対するスプートニクVワクチンを接種します。(WissamHashlamoun / Flash90)

したがって、PAとその年老いた大統領マフムード・アッバースがパレスチナ人の中でほぼすべての信頼と正当性を失ったことは驚くべきことではありません。彼らの役人の言葉は、単なる口先だけの奉仕として理解されています。PAがイスラエルとの安全保障協力を終了すると脅した回数を追跡することはほとんど不可能であり、ほんの少し後に遡るだけです。

それでは、明らかに非嫡出体であるにもかかわらず、PAが依然としてパレスチナ人を代表するものとして多くの人に見られているのはどうしてですか？醜い真実は、PAがまだ存在する主な理由は、イスラエルと国際社会がいわゆる「現状」を維持するためにPAを必要としている



るためです。彼らは、数万人のパレスチナ人の給料を払い続け、イスラエルの占領軍に奉仕するために彼らのコミュニティを取り締まることによって、「安定」を維持するためにPAを必要としています。

欧州連合もまた、PAを存続させるために全力を尽くしてきました。PAへの外部支援の最大のプロバイダーであるEUは最近、皮肉にも「民主的で説明責任のあるパレスチナ国家に向けて」と題された共同戦略プログラムを完了しました。この二国間援助には、12億8000万ユーロの複数年の財政配分が含まれ、ガバナンス改革や公務員や治安部隊のメンバーの給与など、特定の優先分野に焦点が当てられました。

タイトルにもかかわらず、長年のEUの後援により、実際、アッバスと彼の党は権力分立を廃止することができ、大統領は政府の複数の支部を管理し、いかなる形の説明責任もなしに決定を下すことができました。

パレスチナ自治区で行われた最後の全国選挙は2006年でした。ファタハがハマスに議会を失ったとき、EUはパレスチナ政府を制裁し不安定化させるために合衆国に加わった。2021年の夏にようやく選挙が設定されたとき、EUはほぼ完全に沈黙しており、アッバスは国際的な影響を恐れることなく選挙をキャンセルすることができました。先月の大規模な抗議行動の間でさえ、ラマッラーの「パートナー」自体が果たす役割がなかったため、EUはパレスチナ人を支援するためにほとんど何もしませんでした。

#### 私たちにふさわしいリーダーシップ

過去2か月の出来事は、ますます無関係になるPAへの継続的な支援がいかに大きな政治的結果をもたらすかを示しています。ファタハ主導の政府は、パレスチナ人に和平交渉への信頼を失うように導いているだけでなく、実際には、ライバルのハマスと武力闘争のアプローチを唯一の実行可能な政治的選択肢としてカづけています。ハマスとその戦略がここ数週間で人気を大幅に押し上げたことは驚くべきことではありません。多くのパレスチナ人がそのイデオロギーに同意せず、ガザでの権威主義的支配に憤慨しているという事実にもかかわらず、ハマスは依然としてパレスチナ人に何らかの影響や結果をもたらした唯一の政党と見なされています。



パレスチナ人は、2021年5月7日、シェイク・ジャラの東エルサレム地区の家からのパレスチナ人家族の追放の可能性に抗議するためにラマダンの最後の金曜日の祈りを行った後、ハマスの旗を掲げています。(Jamaal Awad / Flash90)

国際社会はこれを認識しており、次に何が起こるかを恐れています。彼らは、PAとハマスの両方の無責任なエンパワーメントが、新しいリーダーシップによる新しい顔が登場するチャンスを減らしていることを知っています。それでも彼ら（国際社会）はそれを逆転させるために何もしていません。

しかし、それは彼ら（国際社会）が進路を変えるには遅すぎるという意味ではありません。

政策の国際的な転換がなくても、パレスチナの活動家の間で、異なる未来を切り開くための新しいグループやイニシアチブが出現しています。たとえば、Jeel al-Tajdeed al-Democracy（私たちが関わっているプロジェクト）は、仮定の代替案を作成しようとしています。

最近の暴動は、PAのアプローチがその人々とどれほど接触していないかを示しています。実際、PAはおそらく、2国解決を真剣に信じているパレスチナの唯一の機関です。世界中からのパレスチナの若者のための議会のリスト。これは、現在キャンセルされているパレスチナ選挙への挑戦として始まりましたが、民主的な変化を組織し、パレスチナの政治システムを復活させることができる包括的な民族的アイデンティティを構築する方法のモデルを提供し続けています。

このようなイニシアチブの成長は、パレスチナの路上での人民運動とともに、パレスチナ人が自由にリーダーを選ぶことができる公正な選挙を通じて、異なるリーダーシップを実現する必要性が高まっていることを示しています。これまでの抑圧に抵抗するために使用されてきた方法論よりも新しい方法論が必要です。そして、

ショーを運営し、最終的にパレスチナ人の意志を彼らにふさわしい方法で代表するためには、新鮮で若く、過激

な志を持った指導者が必要です。

## 人民戦線は、治安部隊によるラマラのデモ参加者の「抑圧」を非難する



治安部隊に殺害された活動家ニザール・バナトさん



ラマラでの殺害への抗議デモ



自治政府支持のファタハのデモと抗議デモの衝突



ジャーナリストに暴力をふるう治安部隊

投稿日：2021年6月26日（最終更新日：2021年6月26日時間：22:17）

ラマラー-マアン-パレスチナ解放人民戦線(PFLP)は、最強の言葉で、活動家ニザール・バナトの殺害を非難するためにラマラに出かけたジャーナリストを含む平和的なデモ隊に「民間服のものを含む治安部隊」と呼ばれるものが殴打し、強烈な催涙ガスキャニスターを発射することを非難した。戦線は、「当局の指導者と、数十人の負傷者と逮捕者を引き起こしたこの新しい攻撃に直接責任を負う治安機関の指導者」の責任があるとした。

戦線は声明の中で、「この自治政府とその抑圧的な装置が、言葉と真実の殉教者に対して犯した危険な殺人から教訓を引き出すことができなかつたことに照らして、ニ



新政府初のガザ爆撃

ザール・バナト、そして、すべての愛国的な呼びかけと呼びかけにもかかわらず、この破壊的な抑圧的なアプローチを継続することの強硬に對して、私たちの人々の大衆に呼びかけます。ヨルダン川西岸全域で、暗殺犯罪の拒否を表明するため、私たちの人々に対する警察の警備サービスの慣行の拒否を表明するために、街頭に出ることを。」

戦線は、「私たちの人々の血と命は、彼らの所属や信念に関係なく、私たちにとって貴重であり、安くはありません。権威主義的な警察の弾圧に力強く立ち向かうことはすべての人の義務です。パレスチナの大衆と民族運動はこの権力を止めるときです」



**最終回  
新しいネットワーク**

この進化の中心にあるのはPMXです。これは、パレスチナのアーティストに音楽を披露し、新しいスキルを学び、世界の音楽業界とつながる機会を提供することを目的としたミーティングポイントです。毎年、主催者は世界中の代表者を招待して地元のミュージシャンに会い、彼らの演奏を見てもらいます。パレスチナの領土が世界に行けないなら、世界は彼らのところにやってくるでしょう。イベントの背後には、クッキング・ヴァイナル・レコードの共同創設者であるマーティン・ゴールドシュミットがいます。彼は、パレスチナ文化に貢献する手段として、Jrereと他の3人のパレスチナ人ミュージシャンおよび活動家であるRami Younis、Abed Daa'dleh、AbedHathoutと共同で設立しました。音楽の才能の深さによって「吹き飛ばされる」だけです。



TooArdは、今年のパレスチナ音楽博覧会で演奏された行為の1つであり、パレスチナのミュージシャンが業界とつながる方法になりました (クレジット: David Corio)

「それ [PMX] はアーティストに機会を与えます。そして、彼らが一歩前進し、彼らのサウンドを完成させ続け、そして彼らのブランドを発展させることを奨励します。」と Jrere は言います。また、健全な競争を生み出し、長

い間断片化されてきたさまざまな音楽シーンを結び付けます。Rasha Nahasは、次のように付け加えています。あなたがあなたを知っているとき、あなたは別のドライブを持っています半年後にはソニーと対戦するかもしれません。」

中東での Spotify の立ち上げは、中東音楽に対する世界的な大きな関心を反映または予想しています。この作品について BBC カルチャーと話すことを拒否しましたが、2018年11月のサービスの領域拡大はデータに基づいていることは確かです。ストリーミングの巨人の新しい存在は、2つの重要な方法でパレスチナのミュージシャンを支援しています。パレスチナの領土に住む人々に彼らを聞くためのプラットフォームを提供すること。そして、「アラブハブ」を通じて、音楽をプレイリストに追加することで世界中の視聴者に提示します。これは、音楽を発見するための重要な手段です。

「中東で Spotify をリリースして以来、私の音楽をフォローする新しい人々の数が大幅に増加しています」と Murad 氏 は言います。「アイスランド、日本など：そうでなければ、私がこれらの人々に連絡することは不可能だったでしょう。」

3年以内に、パレスチナ - マーティン・ゴルトシュミットを含む中東地域の音楽について誰もが話し合う予定です。

パレスチナ音楽がどれほど大きくなるかはまだ分からない。ゴールドシュミットは、これがより大きな何かの始まりであると信じています。「ワールドミュージックは常に英語を話す音楽が主流でしたが、今では K-Pop や南米の音楽、さらにはインドや中国の音楽も見えています。3年以内に、パレスチナを含む中東地域について誰もが話し合うようになると思います。」

ニューヨークを拠点とする独立系音楽出版社である Reservoir のクリエイティブおよび A & R のシニアバイスプレジデントである Hussain Yoosuf は、パレスチナ

## オリープの会通信 第8号(通巻14号)

のミュージシャンが世界のチャートに登場するのは時間の問題だと考えています。

「抑圧は表現につながるということです。パレスチナのような市場は、政治情勢のせいで創造的な才能の温床です」と彼は言います。彼は、「生の才能」とそれを利用できる人々を結びつけることが今だと信じています。「そうすれば、パレスチナ人だけでなく、世界的なヒットになるでしょう」と彼は言います。

これが発生した場合、実行する必要がある作業があります。業界の専門家に音楽を提供できるようになることは大きな一歩ですが、パレスチナのミュージシャンが繁栄するには、地元のインフラストラクチャが必要です。これを認めて、PMXの背後にあるチームは、ラベル、ディストリビューター、およびコレクション協会の立ち上げを促進するために、著作権法の機器を提供し、ワークショップを実行しています。アーティストと外国のプロモーターを結びつけ、旅行の手配を支援するために、ラマラに常設のオフィスを開設する計画があります。

しかし、すべての中東のポップアーティストがまだ直面している大きな障害の1つは、彼らが西洋で後回しにされる傾向があることです。Rasha Nahasは、彼女のアラ

ビアの遺産は彼女が「ワールドミュージック」に分類され、彼女の作品が実際には適合しない特別なアラビアのイベントで予約されているとBBCカルチャーに語っています。「パレスチナの芸術家として、あなたは常に人々にあなたのジャンルを押し付けさせます。人々はいつも私たちが伝統的なパレスチナ音楽を演奏するつもりだと思っていますが、私たちは世界中の他の場所と同じように、多くのアーティストがさまざまなことをしています。」

毎年PMXに参加しているLeBlancは、英語で歌える人だけが主流のチャートにクロスオーバーし、他の人はアラビア語圏の国での販売に依存すると感じています。「彼らは自分の言語で歌うとすぐに、実際にはワールドビートグループではありませんが、ワールドビートカテゴリに分類されます。」

しかし、商業的成功を超えて、世界がパレスチナの領土内の芸術的才能を認めることが期待されています。長い間、文化を犠牲にして紛争に焦点が当てられてきましたが、今になってようやく内部を実際に調べています。

このストーリーやBBCカルチャーで見た他の何かについて



2019年10月 日本で演奏するMCガザ

# パレスチナの詩

## モハムード・ダルウィシュ

### リタと銃

リタと私の目の間に銃がある  
 そしてリタを知る者は ひざまずき  
 祈る  
 ヘーゼルの瞳にある神々しき。  
 そしてリタにキスした  
 彼女が若かった時  
 彼女が私にしがみついていたのを覚えています

そして私の腕はどのように最も美しい三つ編  
 みで覆われていたか  
 そして私はリタを覚えています  
 スズメがその流れを思い出すように。  
 あ、リタ  
 私たちの間には百万羽のスズメと絵がありま  
 す  
 そして数え切れないほどの試行錯誤  
 …に銃で発砲。  
 リタの名前は私の口の中でごちそうでした  
 リタの体は私の血の結婚式  
 そして私は2年間リタに迷い込んだ  
 そして2年間、彼女は私の腕の上で寝ていま  
 した  
 そして私たちは最も美しいカップについて誓  
 いました  
 そして私たちは唇のワインで燃えた  
 そして私たちは再び生まれました。  
 あ、リタ  
 何が私の目をあなたから変えたのですか  
 いくつかの短い昼寝とハシバミの雲

この銃の前に。

昔々…

おお、夜の沈黙

私の月は午前中に遠くに移動した

ハシバミの目に

そして街

すべての歌手どリタを一掃しました。

リタと私の目の間に銃がある。

選択された詩から： マフムード・ダルウィッ

### シュ。紹介と翻訳

Ian Wedde と Fawwaz Tuqan 著。チードル・  
 ハルム、英国：Carcanet  
 Press, 1973. Copyright c 1973 by Ian  
 Wedde. イアンによる改訂  
 ウェッジ Ian Wedde の許可を得て転載。

レバノンの歌手、マルセル・ハリーフエが曲  
 をつけた歌っています。YOUTUBEで Rita and  
 the Gun で検索すれば聞くことができます。



レバノンの歌手で作曲家のマルセル・ハリーフエ



## ワアナイムシ

歩きながら

背筋を伸ばして歩く、頭を高く上げて歩く  
背筋を伸ばして歩く、頭を高く上げて歩く

手のひらにオリーブの枝を持ち、肩に棺を持っ  
ています  
私が歩くとき、私が歩くとき、私が歩くとき、  
私として-私として-私が歩くとき

私の心は赤い月、私の心は庭です  
それはボックスゾーンで満たされています、  
それはバジルで満たされています  
私の心は赤い月、私の心は庭です  
それはボックスゾーンで満たされています、  
それはバジルで満たされています

私の唇は嵐の空のようです  
ある瞬間に火が降り、他の人を愛する  
私の唇は嵐の空のようです  
ある瞬間に火が降り、他の人を愛する  
手のひらにオリーブの枝を持ち、肩に棺を持っ  
ています  
私が歩くとき、私が歩くとき、私が歩くとき、  
私として-私として-私が歩くとき

背筋を伸ばして歩く、頭を高く上げて歩く  
背筋を伸ばして歩く、頭を高く上げて歩く  
手のひらにオリーブの枝を持ち、肩に棺を持っ

ています

私が歩くとき、私が歩くとき、私が歩くとき、  
私として-私として-私が歩くとき

## シュツダルホマア

強くなれ

エネルギーを強め、強さを強くし、海軍を支  
える船

ああ自由、ヘイ、ヘイ、ヘイ、ヘイ

決意を強める、強さは強い、私の傷は自由を  
求める

ああ自由、ヘイ、ヘイ、ヘイ、ヘイ

城の後ろにある私たちは城であり、世界の庭  
は私たちの戦場です

ああ自由、ヘイ、ヘイ、ヘイ、ヘイ

ヘイ リースハルミナ、有名な城ジャイナ

ああ自由、ヘイ、ヘイ、ヘイ、ヘイ  
南、南、南の声が聞こえ、南の声が採石され  
ます

ああ自由、ヘイ、ヘイ、ヘイ、ヘイ  
南部、南部の声が聞こえ、反逆のテープが取  
り除かれます

ああ自由、ヘイ、ヘイ、ヘイ、ヘイ

# おいしいパレスチナ

## サヤディエの巻

今回はサヤディヤと呼ばれる魚とご飯の料理を紹介します。今回のサヤディヤはレバノンのものです。もともとパレスチナも海岸に面していたので、魚料理があります。サヤディヤはパレスチナでも、それぞれの家で作り方が違うみたいで、何人かで、一緒に作ろうとしたらで、ああでもない、こうでもない揉めたことを思い出します。

ご飯と魚を使った家庭料理に、揚げタマネ、アーモンド、松の実を添えました。楽しい！

60分

材料

12人前

2kgのスズキ、または真鯛やタラなどの他の大きな白身魚

長粒米3カップ、すすぎ、水気を切る

大きな玉ねぎ3個

オリーブオイル大さじ3

3/4カップの植物油

生松の実1/2カップ

アーモンド1/2カップ

ウコン小さじ1/2

クミン小さじ1

小さじ1キャラウェイ

シナモン小さじ1/4

塩小さじ2

ステップ

鍋にアーモンドと松の実を大さじ3の植物油で薄茶色

なるまで炒めます。鍋から取り出し、キッチン紙の上に置いておきます。魚を揚げるために鍋を予約します。

魚の内側と外側を塩とオリーブオイルでこすります。

残りの植物油を鍋に加え、柔らかくなるまで魚を炒めます。火を止めます。

鍋から魚を取り出し、鍋に油を入れておきます。

皮をむき、骨と頭を取り除きます。骨を捨てて頭を保ちます。魚の肉を大きなサービングピースに切り、取っておきます。

玉ねぎをフライパンに入れた油でカリカリと茶色になるまで炒めます。揚げタマネギ大さじ3を取り除き、付け合わせのために取っておきます。

鍋に揚げた玉ねぎに魚の頭、香辛料、お湯4カップを加えます。鍋に蓋をして、中火で30分、または玉ねぎがととも柔らかくなるまで煮ます。

魚の頭を取り外します。ソースを沸騰させてからご飯を加えます。鍋に蓋をして弱火で25分炊きます。必要に応じてお湯を追加し、味を付けて塩と調味料がさらに必要かどうかを確認します。水がすべて蒸発したらご飯を炊きます。

ご飯をお皿に入れます。魚のフライを上に乗せ、玉ねぎ、松の実、アーモンドをふりかけます。すぐに召し上がれ。



## 守ろう！オリーブの木を カンバのお願い



### オリーブ畑再生基金の目的

土地を守ることは抵抗闘争である。パレスチナの農民の土地を守る闘い、生活を守る闘いを支援します。集まった基金は、パレスチナ農業労働委員会連合 (UAWC) に送ります。

郵便振替

記号番号：00960-2-303500番

名称：オリーブの会 (オリーブノカイ)

他行等から振り込む場合

店名 (店番)：〇九九店 (099)

預金種目：当座

口座番号0303500

# パレスチナの出来事



過激入植者による挑発的な「旗の行進」



ナブルスの南ベイタの山の防衛隊



ベイタの闘い



ヤッタの没収の危機にある土地での礼拝

## 今号の内容

エルサレムの剣作戦とカイロ会議の中止・・・1

よせあつめのイスラエル新政府・・・3

エルサレムは等式を課している・・・5

自治政府は、その無意味さを証明し続けている・・・7

PA治安部隊による抗議行動の弾圧・・・9

パレスチナポップの台頭(4)・・・11

パレスチナの詩・・・13

パレスチナの人々に愛される詩・・・14

おいしいパレスチナ・・・15



土地の没収に抗議



シェイク・ジャラを取材していたアルジャジーラの記者が逮捕